

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 624 号] 2014 年 6 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: [office@bachchor-tokyo.jp](mailto:office@bachchor-tokyo.jp) <http://bachchor-tokyo.jp/>

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 624

June 2014

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 2014 年-2015 年の活動計画

### [2014 年]

#### ● 創立 52 周年記念懇親会

7 月 5 日 (土)、14:30~16:00 (練習は休み)

くどなたでも参加歓迎>

団員・団友・後援会員の交歓の機会です。月報読者の方々もふくめ、どなたでもご参加いただけます。

- ・会場：深大寺「水神苑」2 階 (去年と同会場)
- ・参加費：3500 円 (昼食つき。当日清算)
- ・お申込み：団員以外の方は、事務局まで直接お申込みください。6 月 25 日締め切り。

【次ページに詳細】

#### ● 2014-2015 年度団員総会

7 月 19 日 (土)、15:30~17:30、荻窪教会

今年度活動報告と会計報告、新年度活動計画と予算案の説明と承認、新年度の各係担当者の選任などを全団員で行います。当団の事業・会計年度は、毎年 7 月 1 日から次年 6 月 30 日まで。

#### ● 8 月のプログラム

毎年 8 月は、長野県野尻湖で 2 泊 3 日程度の合宿練習と湖畔の教会でのコンサート開催が恒例でしたが、今年は、来年 2015 年夏に予定の福島県南相馬市での公演 (3.11 被災地訪問演奏会) に備えて、野尻湖でのプログラムはお休みです。

ただし、次項のとおり、「モテット 3 番」(南相馬での上演曲目)の公開ワークショップ (全 3 回) を行いますので、モテット日本語演奏や来年の南相馬巡演に興味のある方は、ぜひご参加ください。

#### ● 公開ワークショップ「モテットを日本語で歌う」

8 月 9 日 (土)・23 日 (土)・30 日 (土)、荻窪教会

15:30~17:30

くどなたでも参加歓迎>

夏休みの午後、バッハモテットの最高傑作《イエスよろこび》 Jesu, meine Freude BWV 227 を日本語でうたうワークショップ。新規団員のリクルートも兼ねて公開とします。3 回をかけて、各声部の音取りから丁寧に練習し、最終日には終了後ミニコンサートの予定。

- ・モテット・ミニコンサート、最終日の練習終了後。
- ・練習参加無料 (ただし楽譜は実費 500 円)
- ・お申込み：団員以外の方は、事務局まで直接お申込みください。8 月 2 日締め切り。

#### ● 団員ミニコンサート

8 月 30 日 (土)、17:30~18:30、荻窪教会

団員による独唱・独奏・アンサンブルなどのエンターテインメント。例年は、野尻湖合宿中に内輪で行っていましたが、ことしは例外“半公開”。



#### ● 第 111 回定期演奏会

12 月 13 日 (土)、19:00 開演

「3.11 被災地に贈る

バッハのクリスマス音楽の花束」

◇ 曲目

- ・《マニフィカト》より 4 つの挿入曲 (BWV243a)
- ・カンタータ第 97 番《わがすべてのわざ 主に導かる》
- ・カンタータ第 62 番《いざ来たりませ 世の救い主》
- ・カンタータ第 36 番《喜びのぼれいと高き星に》

◇ 演奏

光野孝子 (ソプラノ)、佐々木まり子 (アルト)  
鳥海 寮 (テノール)、山本悠尋 [ゆきひろ] (バス)  
東京カンタータ室内管弦楽団 (オーケストラ)  
草間美也子 (オルガン)  
大村恵美子 (指揮/訳詞)

◇ 会場：府中の森芸術劇場ウィーンホール

(京王線新宿駅から約 25 分、「東府中」下車、徒歩 8 分) (JR 武蔵小金井駅南口よりバスなど)

◇ チケット：全席自由 3500 円 (当日 4000 円)

(チケット発売：2014 年 7 月 1 日。チラシ同時発行)

団友・後援会員の皆さま、ファンどご協力の皆さま

## 創立 52 周年記念懇親会 ご案内

恒例の夏の懇親会の季節がめぐって参りました。

1962 年の創立以来、半世紀にわたって教会カンタータの日本語演奏を中心に、110 回の定期演奏会、5 回のドイツ演奏旅行をはじめ数多くの演奏会を開催してこられましたのは、ひとえに団友・後援会員の皆さま、50 周年記念ファンどへのご協力の皆さまをはじめ、バッハ音楽を愛するたくさんの方々のご支援あってのことと深く感謝いたします。

とくにこの度は、4 大合唱作品の日本語による連続演奏という快挙を完遂させていただきました。これらもろもろに感謝し、またこれからの歩みを見据えて、しばしこの団にかかわっている幸せを、合唱団員ともども分かち合ってくださいと計画いたしました。場所は昨年好評であった「水神苑」。多数のご参加をお待ちしています。

◇日時：7 月 5 日（土曜日）午後 2 時半～4 時  
（昼食付き）

◇場所：深大寺「水神苑」（日本料理）  
（調布市深大寺元町 5-10-3、TEL. 042-486-0811）

◇アクセス

①専用送迎バス：当日午後 2 時出発。京王線「調布」駅北口、タクシー乗り場先頭付近、「水神苑」のマーク付きマイクロバス。

②路線バス利用：京王線「つつじヶ丘」駅北口、「調布」駅北口パルコ前、JR「吉祥寺」駅南口、「三鷹」駅南口より、いずれも「深大寺」行き、終点下車。

◇会費：3,500 円（当日会場でお受けいたします）

◇参加お申込み：団員以外の方は、事務局まで、メール/お電話/FAX/ご郵送等でお申し込みください。  
6 月 25 日締め切り。

創立 52 周年記念懇親会幹事

東京バッハ合唱団事務局：

〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101

office@bachchor-tokyo.jp

電話 03-3290-5731、FAX 専用 03-3290-5732



## ●「東京バッハ合唱団 創立 50 年史」刊行

12 月中に発行・発送予定

## ●荻窪教会クリスマス・コンサート

12 月 20 日（土）、14：00～15：30、荻窪教会

<入場無料>

第 111 回定演の曲目より抜粋、オルガン伴奏

## [2015 年]

### ●新年練習開始

1 月 10 日（土）、荻窪教会、15：30～17：30

1 月 12 日（月）、目白聖公会、18：30～20：30

下記の第 112 回定期演奏会「南相馬バッハ・フェスティバル」（仮称）の曲目の練習が始まります。

### ●第 112 回定期演奏会

「南相馬バッハ・フェスティバル」（仮称）

8 月末または 9 月初（本年 8/1 抽選で決定）

◇曲目

- ・カンタータ第 92 番《わが心 思い 神にゆだねたり》
- ・カンタータ第 81 番《主イエス眠り いかにもすべきわが望み》
- ・モテット《イエス よろこび》

◇演奏

大村恵美子指揮、東京バッハ合唱団・東京カンタータ室内管弦楽団、他ソリスト 4 名

◇協演

そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

- ・「花は咲く」
- ・「大切なふるさと」
- ・「ふるさと」

◇会場：南相馬市民文化会館（1109 席）

◇チケット：前売 1000 円（全席自由席）の予定

【次ページのメッセージ「そうま地方合唱を楽しむ会会員のみなさん」ご参照ください】

## <3. 11 被災地・南相馬への訪問公演について>

2011 年 3 月 11 日の東日本震災の直後から、私たちの合唱団は、被災された地域の方々に思いを寄せてまいりましたが、いよいよ、その思いは、次ページのメッセージにお読みいただくように、来夏の被災地への訪問演奏という形で実現しようとしています。

【4 ページにつづく】

### ●第 113 回定期演奏会（日時・演奏会場未定）

◇プログラム候補（主宰者案）

- ・カンタータ第 16 番《主 ほめ歌わん》
- ・カンタータ第 192 番《感謝せん 神に》
- ・カンタータ第 148 番《み名の栄光を 讃えよ》
- ・モテット第 6 番《ほめよ主を 世の民こぞりて》

来年の夏、わたしたちは南相馬に、バッハの音楽をお届けします。  
みなさんの歌声も、ぜひお聞かせください。  
「ゆめはっと」で、合同のステージを実現させましょう。

わたしたちは、来年（2015年）の夏、南相馬市民文化会館（ゆめはっと）で第112回定期演奏会を開催する予定です。

東京バッハ合唱団（1962年設立）は、日本でもっとも伝統のあるバッハ専門の市民合唱団。一昨年、創立50周年を祝いました。国内では、もっぱら日本語歌詞で歌いつづけています。3.11被災地のかたがたとの連帯を模索していた折に、原町にお住いの畏友、詩人の若松丈太郎先生のご紹介で、ゆめはっと合唱団のみなさんとお知り合いになりました。なんだか相談を重ねながら、来年の夏に、ソリストとオーケストラ、オルガニストと共に、ご当地を訪問する計画が進んでいます。

お届けするのは、バッハ音楽の心髄とされながら、日本ではまだまだ埋もれた宝庫と言わざるをえない「カンタータ」と「モテット」です。J・S・バッハ（1685-1750）がドイツの市民と教会のために作曲した多くの合唱音楽のうち、カンタータは200曲ほど、モテットは10曲ほどが残されています。ここから代表的な2曲のカンタータとモテット1曲を演奏する予定です。

ところで、これらの合唱曲では「コラール」と呼ばれる、数百年にわたってドイツの民衆の心を養い、魂を励ましつづけている讃美歌が骨組みをつくっています。コラールは、ドイツ人にとっての愛唱歌であり民謡と呼べるもの、わたしたちの唱歌「ふるさと」やみなさんの「相馬盆唄」にあたるものと考えてください。作曲家バッハは、ひとびとに親しまれたこれらの旋律と歌詞をたくみに編み込みながら、信仰の歌、希望の歌を書き上げました。ですから、ここから出来上がったカンタータやモテットがどんなに複雑で（厳格なフーガが絡みあいます）、どんなに深刻な（地震や津波にも言及します）内容であっても、聴衆のここを引きつけて離さないのです。コラールはキリスト教世界で育ちましたが、その安らぎと親しさの感覚は、世界共通、まったく普遍的なものです。

バッハのカンタータやモテットは、この「コラール」が、あらかじめ聴衆のみなさんに共有されていることを前提に演奏されるのが理想です。そこでお願いです。ご希望の方にはコラールの楽譜（2曲、日本語歌詞、各1枚）を差し上げます。来年のコンサートまでの約1年間、ときどき眺めて、親しんでおいていただきたいのです（主旋律＝ソプラノ）。当日はこの「主旋律」が、その後に展開される荘厳で深遠なバッハ音楽の、あちらにもこちらにも姿を現します。バッハの望んだとおりの仕掛けが、会場のみなさんを親密な共感へと誘うことでしょう。ご協力をお願いします。

東京バッハ合唱団 第112回定期演奏会

<プログラム・案>

○日時：2015年8月末または9月初の1日（本年8/1または9/1に抽選で決定）

○会場：南相馬市民文化会館（ゆめはっと）大ホール

○曲目：J・S・バッハ作曲（日本語演奏、大村恵美子訳詞）

・カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》

・カンタータ第81番《主イエス眠り いかにもすべきわが望み》

・モテット《イエス よろこび》

○演奏：大村恵美子指揮、東京バッハ合唱団・東京カンタータ室内管弦楽団、他ソリスト4名

○協演：そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

・「花は咲く」・「大切なふるさと」・「ふるさと」

○入場料：前売1000円、当日1200円の予定（全席自由）

○主催：東京バッハ合唱団

○協力：そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

○後援：ドイツ連邦共和国大使館（予定）、南相馬市文化振興事業団（予定）、その他交渉中

○協賛：多数予定、交渉中

<ステージ構成と曲順など・案>

○第1ステージ・第1部。カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》上演に先立ち、同名のコラール「わが心 思い 神にゆだねたり」の旋律提示と4部合唱（東京バッハ合唱団）。ひきつづき、カンタータ第92番全曲の上演。みなさんは客席でお聴きください。

○同・第2部。そうま地方合唱を楽しむ会の演奏にご参加いただきたい。

○第2ステージ・第3部。カンタータ第81番《主イエス眠り いかにもすべきわが望み》とモテット《イエス よろこび》上演に先立ち、同じく同名のコラール「イエス よろこび」の旋律提示と4部合唱（東京バッハ合唱団）。カンタータ第81番とモテット《イエス よろこび》全曲上演。同上。

○同・第4部。上記でメインのプログラム終了。アンコールとして、有名なコラール「主よ 人の望みの喜びよ（イエス わが喜び）」と唱歌「ふるさと」の全員合唱（聴衆も含む）。コラール先導：東京バッハ合唱団、「ふるさと」先導：そうま地方合唱を楽しむ会合唱団。

<参加申し込み、楽譜の入手など>

○参加申し込み：ゆめはっと合唱団（桜井事務局長さま扱い。連絡先は下記をご覧ください）

○コラール楽譜：ご希望の方にはコピーを差し上げます（同上）。

■現地でのお問合せ・・・ゆめはっと合唱団

電話：0244-22-0353、携帯：080-6028-1206（事務局長・桜井雅勝）

■お問合せ・・・東京バッハ合唱団事務局

電話：03-3290-5731、FAX：03-3290-5732、

メール：office@bachchor-tokyo.jp

URL：http://bachchor-tokyo.jp/

「そうま地方合唱を楽しむ会」は、このたびの企画に対し、現地での受け皿となることをお申し出くださった「ゆめはっと合唱団」を含む、同地方の7つほどのコーラス団体の集まりで、毎年、合同演奏会を継続開催しています。震災前には10以上の合唱団が加わっていたのが、津波被災と放射能汚染からの避難などで活動停止を余儀なくされた団体も多いのだそうです。

「ゆめはっと」は、南相馬市民文化会館の愛称。オペラ上演も可能な大ホール(1109席)があります。この会館を拠点とするのが「ゆめはっと合唱団」で、私たち東京バッハ合唱団の活動を高く評価していただき、演奏を現地で直接聴けることをとても楽しみにしていただいています。

### 地方都市民・第3セクターとの、初の共同作業

前ページのメッセージは、上述の「そうま地方合唱を楽しむ会」の総会の折に、参加者全員に配布していただくべく用意したものです。6月1日の開催と聞いておりますので、すでにご当地のお仲間のお手もとに届いていることでしょう。この趣旨を、読者のみなさまにも共有していただきたいと願い、転載します。

今回の南相馬での公演は、もちろん、多くの合唱愛好者の方々があらかじめ待ち受けてくださっているという好条件下ではありますが、当合唱団の主催事業として、地方都市の一般市民の方々を対象とする初めての試みです。都内で開催するふだんの定期演奏会では、とくに近年は、後援会員の皆さまをふくめ、ご常連の方々が7,8割を占めるようになっていて、この方々は、バッハの宗教合唱曲の世界になじんでいらっしやいますし、日本語での演奏にも積極的な理解を示していただいています。また地方開催であっても、教会からのお招きであったり、キリスト教関連団体主催であったりする場合には、歌詞の内容に親しみを感じてくださることは確実です。

しかし、このたびは教会の外での公演であり、バッハのカンタータやモテットに初めて接するという方が大多数なのかも知れません。場合によっては、この地で、ソリストと合唱とオーケストラとオルガンを擁する本格的なバッハ音楽の演奏が、はじめて響くのかも知れません。この試みを、わたしたちは、教会音楽家バッハの市民への開放ととらえて、耳の肥えた合唱王国・福島県の、「そうま地方合唱を楽しむ会」のみなさんを中心とした聴き手の方々に、最高の質の演奏をお届けしたいものです。

この機会に播かれたバッハ音楽の種が根付き、モテットの最高傑作《イエス よろこび》(Jesu, meine Freude)やカンタータの数々が、ここ南相馬の地で大いに生い茂り、盛んに歌われるようになればと願っています。

今後一年、おりに触れて続報してゆきます。歌い手として、または聴き手として、ご同行いただければ幸いです。遠隔の地からのご参加もご検討ください。

## 新・刊・紹・介

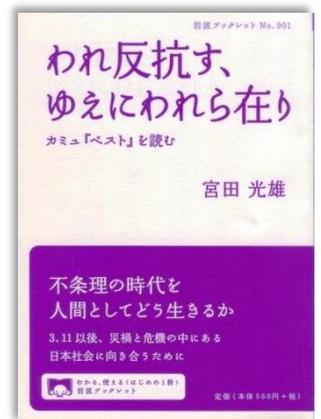
(岩波ブックレット No.901)

(2014年6月4日 発行)

宮田光雄・著

## 「われ反抗す、 ゆえにわれら在り」

——カミュ『ペスト』を読む



大村恵美子 (主宰者)

宮田先生から、またまた発行当日に、新刊のご寄贈をいただきました。2014年1月号から4月号の雑誌「世界」に連載されたものに加筆された内容で、すでに私も共感をおぼえながら読んだものを、こうして70ページ余のブックレットにまとめられ、数か月をへた現時点であらためて読み返ささせていただくと、とても意義深く、来年、東日本の被災地を訪れようとしている私たちには、心を整えるに最適の贈り物となりました。

裏表紙の帯には、こうあります；

アルベール・カミュの『ペスト』(1947)は、「不条理に人間としてどう立ち向かうか」を描いた小説として、時代を越えて読み継がれている。特に、3.11を経験し、戦後民主主義を否定する政治的な動きが広がる現在の日本社会において、この作品を読む意義は大きい。不条理に反抗する力とは。人間の可能性とは。カミュの思想も紹介しながら、根源から読み解く。

宮田先生ご自身の結びの部分でも、私たちの活動を強く後押ししてくださるようなお言葉に出会えます。私たちのバッハ音楽への心を鍛えるためにも、ぜひ一読をおすすめします。

これからは戦争はくり返し起こるかもしれない。病気や罪なき者の苦難、人間のあいだのさまざまな悪行は絶えることなく生ずるだろう。こうした地上における生の現実をたいして、われわれは不断の警戒を怠ってはならない。[……] こうして将来に向かって状況を新しく切り開くために、必要とあれば、いつでも抵抗しうる力を蓄えておかなければならない。一人びとり、あたえられた持ち場に固く踏みとどまり、さまざまの形で可能となる連帯的行動に打って出るために。

(著者、同書 p. 70)

1928年生まれ、宮城県仙台市にお住いの宮田先生の、被災にもめげず前進を続けられる誠実・強靭を、私たちもしっかりと見習いたいと思います。

「バッハ・カンタータと教会暦の聖句一覧」連載⑬は、休載します。